

ジノテフラン顆粒水溶剤の樹幹塗布によるブドウのクワコナカイガラムシの防除

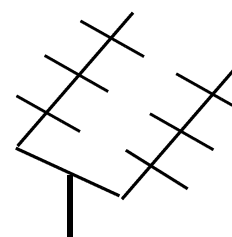
村上芳照¹・功刀幸博¹・川嶋美由貴²・大同英則²
(¹山梨県果樹試験場・²三井化学アグロ株式会社)

1. 背景、目的

近年、生産者の高齢化に伴い、栽培技術だけでなく病虫害防除にも省力化が求められている。また、消費者のニーズ、環境負荷の少ない防除技術への要望から、薬剤散布の削減が求められている。ここでは、ジノテフラン顆粒水溶剤の樹幹塗布によるブドウのクワコナカイガラムシに対する防除効果について検討した。

2. 試験方法

- (1) 試験場所：山梨果試場内圃場
- (2) 供試樹：赤嶺12年生、短梢栽培
- (3) 供試虫：場内のブドウ園で卵塊を採取し、ジャガイモで飼育した系統
- (4) 供試薬剤：ジノテフラン顆粒水溶剤（40g+40ml/樹）
- (5) 処理方法：供試薬剤を所定の濃度に調整し、粗皮を除去した主幹部にハケで塗布した（塗布幅50cm）。処理日は、H20年5月1日および5月15日。
（1区2樹、無処理は1樹）
- (6) 供試虫の接種：5月23日。若齢幼虫（約200頭）を右図のように主枝の基から2、4、6mの地点で、新梢の第1～2葉に接種した。
- (7) 調査：5月29日、6月5日、6月18日に各区の寄生幼虫数を調査した。
- (8) 葉中の成分分析：下記の日に葉を採取して葉中の成分を分析した。
5/1処理区（5/15、5/28、6/16、6/30）
5/15処理区（5/22、5/28、6/16、6/30、7/15）



3. 結果の概要・要約

- 1) 無処理区では、6日後の寄生虫数は、一部で定着が悪いものも見られたが27.6～45.4頭/3葉で、十分量定着した。その後、日数の経過に伴って減少した。
- 2) 5月1日処理区では、接種6日後の虫数は無処理に比べ少なかった。接種部位では、薬剤処理部位から離れるほど虫数が多い傾向が見られた。6月15、18日には寄生は全く見られず、防除効果が認められた。
- 3) 5月15日処理区では、接種6日後の虫数は5.5～11.3頭/3葉と無処理に比べて少なかった。6月5日にはほとんどの葉で寄生は見られず、6月18日には全く認められなかった。
- 4) 葉中の成分は、処理1～2週間後に濃度が上昇してピークとなり、3週間後に緩やかに減少した。
- 5) 以上の結果から、ジノテフラン顆粒水溶剤の樹幹塗布処理は、クワコナカイガラムシの寄生・定着を抑制し有効な防除法と考えられた。